



特集③

# ヨシ原を守ることが地球の生態系を守る気付きに

## 荒川のゴミを拾って、身近な自然を体験

東京都協議会「荒川清掃行動」

東京都民や埼玉県民になじみが深い荒川にも多くの命が息づく生態系が存在している。そのゴミを拾うことは、地球の生態系を守ることも気付きでもある。

### ●「ゴミ拾いを通じて環境問題を考えるきっかけ」

埼玉県と東京都を流れる一級河川、荒川。荒川流域での一斉清掃「荒川クリーンエイド」は、94年から行われている。

開始当初、2600人ほどだった参加者は、今では1万人ほどになる。はじめて清掃活動を行った当時の荒川は、それまで長年蓄積されてきたゴミが、川辺に帯状につながっているという状態だった。今ではそのような場所も少なくなっている。

清掃活動の成果はそれだけではない。参加者の環境問題に対する意識が高まったのは大きな変化だ。荒川クリーンエイド・フォーラム代表理事の佐藤さんは、「プラスチックゴミやペットボトルなど、回収されるゴミの大半は、私たちが普段使うものです。その現状を目の当たりにし、

ゴミを減らす工夫など、自分のライフスタイルから見直そうとする人が増えました」と話す。河川敷の清掃活動は、市民がゴミ問題について考えるきっかけをつくっている。

### ●「身近な自然を守ることは生態系保全につながっている」

荒川クリーンエイドには、「清掃活動を通して自然を回復させ、生態系を守っていく」という活動目的がある。例えば荒川に生息しているヨシは、地下茎を通じて根に酸素を供給して微生物の活動を活性化するとともに根から栄養塩を吸収して水を浄化する働きを持つほか、昆虫や鳥類などの住処として生態系保全にも役立つ。

「ヨシ原を守ることが、地球上の生態系を守ることにつながっています。清掃活動を行う前、荒川のヨシ原はゴミに覆われ、そこに住む生き

物たちの生態を脅かしていました。しかし、清掃活動を行うようになつてからヨシ原はきれいになり、生態系も回復しています」(佐藤さん)

ゴミなどによる環境破壊は必ず生態系に影響を及ぼす。この現状を知ってもらうため荒川クリーンエイドでは、ゴミ拾いをしながら自然に触れてもらうことが大事だと考える。

「まずは、ゴミを拾いながら荒川にはこんなに自然があるんだ」ということを感じてもらいます。そして、清掃活動によつてこの自然が守られ、さらには生態系も守られていることを伝えます。参加者がその関連性に気づき、身近な自然を守っていくことの大切さについて考えるようになってくれることが、私たちの願いです」と同会の事務局長である糸岡さんは話す。

### ●「一人ひとりの活動にさらなる価値を生むために」

自分たちの住む地域の環境を守っていくことも、重要な環境保全活動の一つであることを意識してほしいという2人。労働組合の活動を通じて、人々にそのきっかけが生まれることには大きな意味があるという。

「清掃活動に参加する人は、環境保全のために何かを始めたいという人たち。しかし、何かしたいと思つていても、きっかけがないという人もいます。そういう人たちに、労働



荒川クリーンエイドの佐藤さん(右)と糸岡さん(左)



組合を通じて環境保全活動に参加するきっかけをつくってくださることは、非常に素晴らしい取り組みだと思います」(佐藤さん)

身近な清掃活動で得たこと、感じたことから、環境への意識が深く、広くなつていく。たくさんの人にきっかけを与える荒川クリーンエイドの活動が、一人ひとりの価値ある行動の源泉になっている。

NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム 94年、荒川放水路の通水70周年を記念して荒川の一斉清掃を開始。99年にNPO法人を取得。荒川の自然を取り戻し、市民の環境保全意識を高めることを目的として、ゴミ拾い・ゴミ調査を実施。近年では、年間を通じて約1万人が参加している。